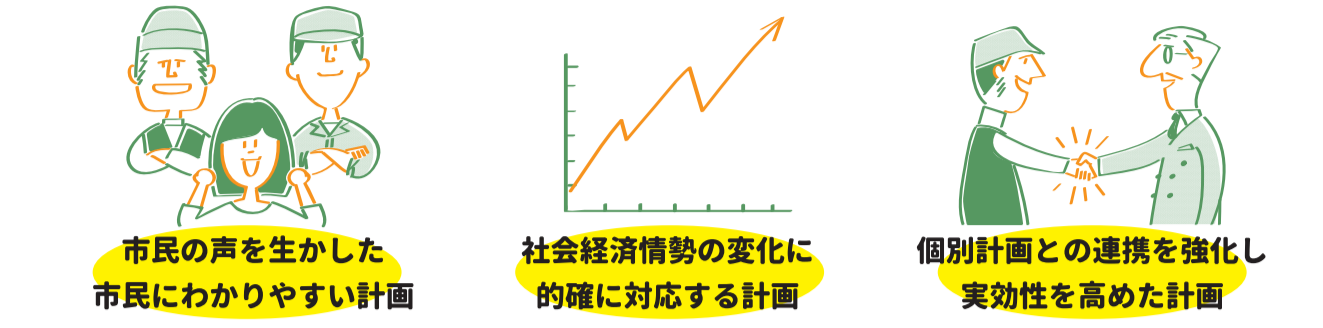


総合振興計画について

総合振興計画は、今後 10 年間のまちづくりの指針となるものであり、行政のすべての分野における施策の方針を掲げた長期計画です。

第 1 次計画は、旧町の効果的な施策を合わせた盛りだくさんの内容であったため、方向性がつかみにくいこと、また評価指標があいまいで十分な評価ができないという課題がありました。こうした点をふまえ、以下の 3 つの点を重視して策定しました。



さらに、市民・各種団体・事業者・行政等が協力・連携した「協働によるまちづくりの推進」を図るとともに、P D C A サイクルに基づく計画の進行管理を行います。そして異なる分野の施策を連携させることで相乗効果を生み出すため、「施策連携プロジェクト」を設定し、行政内部の連携のみならず、市民や関係機関・団体、事業者等とも連携し、協働による推進を図ります。

また、南丹市の人口は、2060 年には 18,000 人程度にまで減少することが予測されていることから、「南丹市定住促進アクションプラン」や「南丹市地域創生戦略」の取り組みに続き、本計画においても「定住促進」を重点テーマに掲げていきます。

総合振興計画とビジョンマップのかかわり

第 2 次南丹市総合振興計画では、まちづくりの基本方針ごとに基本施策を設定し、基本施策ごとに「10 年後のビジョン」「現状と課題」「目標指標」「施策の方向」「市民に期待する取り組み」「具体化する部門別計画」を記載しています。いわば南丹市に関わる幅広い分野を網羅する内容の計画となっています。

一方、ビジョンマップでは、市民のみなさんの感じる地域の課題を集め、市民のみなさんがこうあってほしいと考える 10 年後の南丹市のイメージを取りまとめています。いわば市民目線のビジョン・市民感覚の将来イメージを集めたものです。

幅広い分野を網羅する行政計画とともに、市民目線でできること、やってみたいことから始めていくビジョンを合わせて、南丹市の将来に向けた行政と市民の協働を進めていきます。

連絡先

南丹市 企画政策部 定住・企画戦略課
 TEL 0771-68-0001 (代表) FAX 0771-63-0653
 E-mail kikaku@city.nantan.lg.jp



NANTAN LIFE VISION MAP

第 2 次南丹市総合振興計画付録
市民が考えた南丹市のこれから

このマップの使い方

このマップは、市民目線で見た南丹市の現状や課題、将来に向けての意見をまとめたものです。また、協働によるまちづくりの推進を図るとともに、P D C A サイクルに基づく計画の進行管理を行います。

10年後に向けての実現性を高めるための取り組みを随時追加

2020 年度 28 回のワークショップを開催し、市民目線で見た南丹市の現状や課題、将来に向けての意見をまとめた。また、協働によるまちづくりの推進を図るとともに、P D C A サイクルに基づく計画の進行管理を行います。

2021 年度 28 回のワークショップを開催し、市民目線で見た南丹市の現状や課題、将来に向けての意見をまとめた。また、協働によるまちづくりの推進を図るとともに、P D C A サイクルに基づく計画の進行管理を行います。

2022 年度 28 回のワークショップを開催し、市民目線で見た南丹市の現状や課題、将来に向けての意見をまとめた。また、協働によるまちづくりの推進を図るとともに、P D C A サイクルに基づく計画の進行管理を行います。

みんなで挑めば怖くない 解決していききたい 地域のお悩み 36

森の課題

移住定住 森-1 子育て・保健・医療・福祉 若者を中心に、人口減少が顕著。 若い世代がまちに流出し、人口減少とともに地域の次の世代を担う人材の確保が心配。子どもも減少している。	移住定住 森-2 環境・景観 山のライフスタイルの新しいことが知られていない。 先駆的な移住者の暮らしなど、大きな可能性があることが知られていない。大都市への移動が比較的しやすい点なども知られていない。	移住定住 森-3 子育て・保健・医療・福祉 買い物や通院など、身近なところで用事を済ませられない。 身近な商店なども無くなり、車がなければ住み慣れた地域で暮らしていけない。交通機関も使いにくく、生活に不便が多い。	移住定住 森-4 観光・産業振興 生活習慣病への配慮が少なく、健康面への不安が大きい。 山間部の暮らしで身体を動かしているつもりでも、車を使うことも多く、食生活への配慮が少なかつたりますので、健康面での配慮が必要。	移住定住 森-5 環境・景観 まちにはない地域ならではの恵みが生かされていない。 森や川など、豊かな自然環境の恵みをもっと知ってもらうとともに、生かしていくための新しい視点も必要。	移住定住 森-6 観光・産業振興 鳥獣被害が深刻化している。 農作物を荒らすシカ・イノシシの被害が深刻化しており、農林業を続けるのが困難なところもある。	移住定住 森-7 観光・産業振興 やりがい、生きがいとして農作業が続けられるか不安。 集落や住まいの周りの風景をつくる家々の農業は大切。やりがい、生きがいにつながる農業を続けられるようにすることが必要。	移住定住 森-8 安全・安心 ライフラインの寸断など、災害に対応できるか不安。 集中豪雨が近年増えており、特に限界集落ではライフラインが寸断された場合も想定した対策が必要。	移住定住 森-9 安全・安心 荒れた森林が増え、土砂災害の危険性も増えた。 管理が行き届かず放置された森林も多く、土砂災害の危険性が高いところもある。若い世代の後継者がおらず、さらに不安は高まる。	移住定住 森-10 教育 貴重な地域文化を受け継いでいけるか不安。 山間部独特の行事や祭礼、風習など、若い世代が流出している現状ではこれから継承していけるか不安が大きい。	移住定住 森-11 教育 豊かな環境を生かした、子どもも大人も学べる機会を。 豊かな自然環境や農林業など、ここでしかできない貴重な学びの機会ができるはず。南丹市ならではの教育ができるように。	移住定住 森-12 教育 集落で暮らす子どもたちが少なくなった。 地域での暮らしを受け継ぐために、さらにまちから人を引き付ける魅力を高めるために、子どもが充実した教育を受けられる環境づくりが必要。
---	--	---	--	---	---	--	---	---	--	--	---

里の課題

移住定住 里-1 子育て・保健・医療・福祉 UターンやEターン、地域に住む若い世代がまだ少ない。 人口減少が進み、集落の存続が不安。若い世代が地域の暮らしになじみ、根付いてくれるようになってほしい。	移住定住 里-2 環境・景観 美しい自然、名所旧跡もあるが知名度が低い。 地域ならではの資源はあるが、知名度が低く、活性化に生かして切れていない。これらに向けて、資源を生かす新しい視点が必要。	移住定住 里-3 子育て・保健・医療・福祉 日々の暮らしに不自由される一人暮らしのお年寄りが増えた。 地域では一人暮らし高齢者が増え、車がないと買い物や通院など出かけることが難しい人も増えてきた。	移住定住 里-4 安全・安心 子どもたちが少なくなり、地域の担い手不足が心配。 地域で暮らす子どもたちも減り、地域の行事もめっきり減った。将来を担う子どもたちが少なくなり、地域の将来が不安。	移住定住 里-5 教育 地域の世代間、そして同世代でもお互いのつながりが薄い。 地域の外で仕事をする人も多く、また人が集まる場所・機会も少なくなり、世代間だけでなく同世代でもお互いのつながりが薄れてきている。	移住定住 里-6 観光・産業振興 暮らしを支える農業をもっと活性化させる。 地域の基幹産業である農業を生かすため、特産品のブランド化、地産地消を進めていくことが必要。休耕田対策、後継者・担い手の確保を。	移住定住 里-7 協働のまちづくり 人口減少が進み、地域活動の継続が難しい。 高齢化と人口減少が進み、一人ひとりの負担が増加しており、地域活動を続けていくことが難しくなっている。	移住定住 里-8 協働のまちづくり 使われなくなった公共施設の有効活用を。 人口減少などで廃校になった小学校など、使われなくなった施設を地域の活性化のために有効活用していきたい。	移住定住 里-9 教育 暮らしの文化がなくなってしまいうまくもしい不安がある。 若い世代が流出し、地域の文化や暮らし方を学ぶ機会も少ないため、受け継いできた暮らしの文化が失われていくかもしれない。	移住定住 里-10 協働のまちづくり 使われなくなった公共施設の有効活用を。 人口減少などで廃校になった小学校など、使われなくなった施設を地域の活性化のために有効活用していきたい。	移住定住 里-11 協働のまちづくり 使われなくなった公共施設の有効活用を。 人口減少などで廃校になった小学校など、使われなくなった施設を地域の活性化のために有効活用していきたい。	移住定住 里-12 協働のまちづくり 使われなくなった公共施設の有効活用を。 人口減少などで廃校になった小学校など、使われなくなった施設を地域の活性化のために有効活用していきたい。
--	---	---	--	---	--	--	--	---	---	---	---

街の課題

移住定住 街-1 子育て・保健・医療・福祉 若者を引き付ける魅力ある仕事が見当たらない。 ものづくりなどの産業、空き店舗など仕事づくりの種はあるが、若い世代が生活できるような仕事にまではつながっていない。	移住定住 街-2 観光・産業振興 子どもたちが遊ぶ声があつたり少なくなった。 地域で遊ぶ子どもも減り、まちのにぎやかさが減ってしまった。暮らしのにぎわいと子どもを通じた地域のつながりが薄れ、まちの将来が不安。	移住定住 街-3 子育て・保健・医療・福祉 一人暮らしのお年寄り、地域とつながりがないと不安。 一人暮らし高齢者の中には、地域とつながりが薄い方もおられ、見守り活動や声掛けなどがさらに必要。	移住定住 街-4 観光・産業振興 子どもも大人も、生活習慣病が心配。 運動不足や食生活の乱れなどが目立ってきた。子どもも大人も地域で健康に安心して暮らせるようなサポートも必要。	移住定住 街-5 観光・産業振興 まちなかににぎわいが減り、空き店舗も増えた。 かつてはにぎわっていたまちなかも、さびれている。もっと新しい店も増えて、活気が出るようになってほしい。	移住定住 街-6 観光・産業振興 地場産業が低迷し、後継ぎも少ない。 農業や林業、ものづくりなど、地域に根付いた産業が低迷し、これらの存続も難しくなっている。	移住定住 街-7 観光・産業振興 地場産品を買ってくれる地域の人まだまだ少ない。 地域には良い野菜などの地場産品があるので、地域の人にもっと知ってもらい、お金が地域で回るようになってほしい。	移住定住 街-8 安全・安心 災害など、もしもの時に近所で助け合えるか不安。 近隣のマンションなど、誰が住んでいるかわからないところも多く、隣近所で声掛けできる関係がなくなりつつある。	移住定住 街-9 教育 地域への愛着が薄れ、まちの暮らしの文化が失われてしまう。 地域外からの転入者も多いが地域になじむ機会が少ない。地域への愛着が薄くなり、伝統やまちなか独自の暮らしが失われてしまう。	移住定住 街-10 教育 ライフスタイルも多様化し、地域住民相互のつながりが薄い。 ライフスタイルが多様化し、地域と密着した暮らしをする人が少なくなっている。お互いが出会う機会も少なく、地域住民相互のつながりが薄れてきている。	移住定住 街-11 協働のまちづくり 若い世代の地域活動離れが進み、継続が難しい。 少子化や核家族化、若い世代の地域組織離れが進み、地域活動を続けていくことが難しくなっている。	移住定住 街-12 協働のまちづくり せっかく公共施設が身近にあるのに、生かされていない。 コンサートができるホールなどの使用料が高くて地元では使えない。もっと地域住民のニーズに合ったイベントなどをしてほしい。
---	---	--	---	--	--	--	---	--	--	---	--

このマップができた流れ

